学校関係者評価（外部評価）委員会の在り方について

愛知県立豊田高等養護学校

１　学校概要

本校は，愛知県下で初めて設立された高等養護学校であり，16年目を迎える。軽度知的障害のある生徒の社会自立を目指しており，現在，154名の生徒が在籍している。

設立以来，地域との連携を地道に進めてきた。学校行事等で交流するだけではなく，自治区が主催する行事や活動の場を提供するなどしてきた。逆に，生徒の登下校の安全確保のために街灯を取り付けていただくなど，様々な面で支えられている。「先生，体育祭が近いね。土手の木の枝が伸びとったんで，切っといたよ。これで親御さんの車が通りやすくなるでしょ」といった声が日常的に飛び交い，正に地域と共に歩んできた。

(1) 教育目標

社会の一員として必要な知識・技能・態度を備えた人間の育成を目指し，教育活動を進めている。

次のア～エが教育目標である。

ア　働くために必要な基礎的・基本的な力を身に付けるとともに，一人一人の生徒の特性等を更に伸ばし，職業自立を目指す。

イ　たくましい心や体を育て，生涯にわたり健康で安全な生活を送るための基礎を培う。

ウ　芸術やスポーツなどに親しみ，心身の調和のとれた健全な生徒を育成する。

エ　集団生活や体験的な学習を通して自立心や協調性を養うとともに，豊かな人間性をはぐくむ。

(2) 教育課程

国語・社会・数学・理科等の普通教科も学習しているが，工業（木材加工，金属加工，紙器加工，縫製加工，窯業，セメント加工）・農業（農芸）が，総授業時数のほぼ半分を占める。

(3) 進路

例年，卒業生の約96％が企業就職をしている。その中で約70％は製造業に，残る30％ほどが卸売・小売業・飲食店，運輸・通信業，サービス業に従事している。

２　昨年度までの取組

(1) 準備委員会の発展的解消

平成16年度に学校評価準備委員会を立ち上げた。この会は，教頭・部主事・総務主任・教務主任・生徒指導主事・進路指導主事の６名で構成され，学校評価制度を導入する事前準備として，教職員の共通理解を図るために資料を提供してきた。検討を重ねた結果，本校における学校評価が徐々に定着しその役割を十分果たし終えたと判断し，18年度末をもって「学校評価準備委員会」を発展的に解消した。一方で，重点目標等の原案作成や提案等は「学校評価委員会」が受け継ぐこととした。

(2) ガイドラインを重視した改善

18年３月に文部科学省より出された「学校評価ガイドライン」に沿って，それまで行ってきた本校の学校評価について見直しをした。学校評価の具体的手順及び年間計画を再検討し，流れ（ＰＤＣＡサイクル）が効果的になるようにした。その一つとして，学校評価委員会の開催時期・回数についても議論を深めた。

３　昨年度までの反省と課題

(1) 学校関係者評価（外部評価）委員会の在り方

18年度については，「学校評価ガイドライン」に示されている「学校関係者評価（外部評価）委員会」を設置することができなかった。学校関係者評価委員と学校評議員とを同じメンバーにするかどうか，同じにしないのであればどういった観点で人選するのかといった問題点が出された。

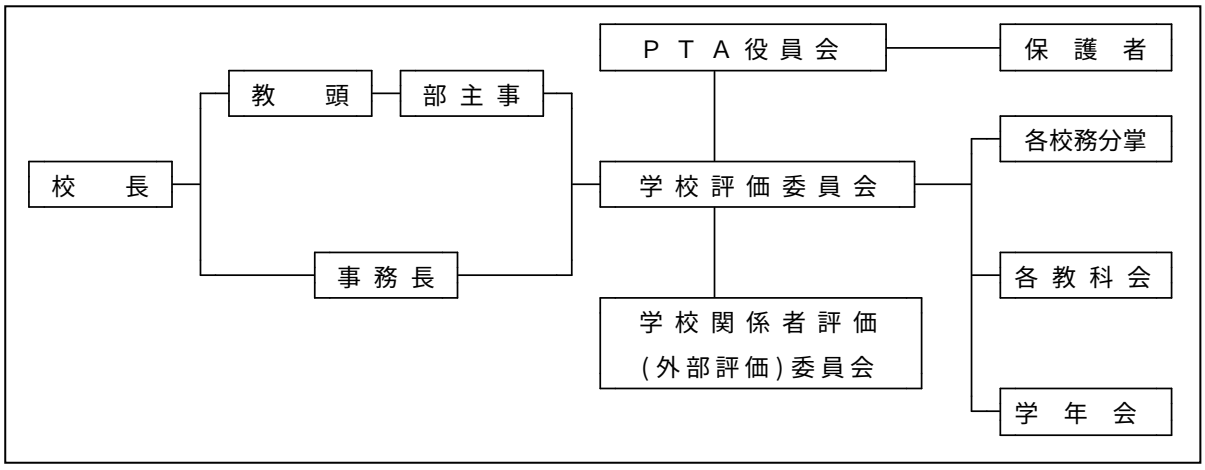
(2) 学校関係者評価（外部評価）書の検討

18年度については，学校評議員及び保護者等から学校行事等についてアンケートをとり，その結果を自己評価に生かすにとどまっていた。学校関係者評価（外部評価）委員会を機能させるために，自己評価書の充実と併せて学校関係者評価（外部評価）書の作成が課題として残った。

４　今年度の実践

(1) 組織図

学校関係者評価（外部評価）委員会の位置付けは，以下のとおりである。自己評価（内部評価）の取りまとめは，校務分掌の「総務部」が担当することとした。



(2) 評価のタイミング

ＰＤＣＡサイクルに沿った学校評価にするために，年間計画についても見直しを図った（資料１）。学校評価準備委員会をなくす一方，学校評価委員会の回数を今までより増やし，効果が上がるように会議の時期を設定した。

(3) 学校評議員の構成と問題点

本校における学校評議員の構成は，地元有識者代表（地区老人クラブ会長），地元地区代表（自治区長），福祉関係代表（地区民生児童委員会長），地元産業関係代表（事業所社長)，本校保護者代表（元ＰＴＡ会長）の５名である。

このメンバーでは，教育活動や学校運営の改善に向けた取組が適切かどうかを検証し，自己評価の客観性を高めることは非常に難しい。その理由として，以下のようなことが挙げられる。

ア　重点目標が教育課程の内容にまで及んでいるため，「分からない」と言われることが多い。

イ　アの状況から，ごく限られた点のみについての評価になってしまう。

ウ　アの状況から，あえて学校の期待を伝えて評価をしていただこうとしても，当たり障りのない意見になってしまう。

エ　常に本校の教育活動に協力的であるのは有り難いが，最終的に「学校に任せる」という意見になり，改善に結び付かない。

オ　18年度までは，評価者（学校評議員）も被評価者（学校）も「評価」ということに慣れていなかった。評価は批判につながるような意識があり，協力体制維持になじまないといった思いがあった。年度が改まっても，意識はすぐに変わらない。

(4) 学校関係者評価（外部評価）委員の選出をめぐる議論

「本校で行っている教育活動の特色等を理解して，厳しく評価していただきたい。したがって，学校関係者評価（外部評価）委員については，学校評議員をそのままスライドさせるのではなく別枠で考えていきたい」との意見が，職員間で圧倒的多数を占めた。

学校概要でも述べたが，本校は，先人達の努力のおかげで現在，25社を超える事業所に継続雇用していただいている。毎年，95～96％の高い就職率を達成している。これを維持・発展していきたいという思いは強い。そこで，「学校関係者評価（外部評価）委員については，３年後の社会自立を考え，事業主の方に評価していただき，教育活動に生かしたい」という意見が出た。反論として，「特定の事業主だけをメンバーにするのは好ましくない」といった意見も出た。

一方で，本校も多くの解決すべき問題を抱えている。軽度の知的障害といっても能力差は大きく，自閉症やＡＤＨＤ，アスペルガー，高機能自閉などの発達障害の生徒が増え，日々，指導に苦慮している。「個別の教育支援計画」（資料２）と「個別移行支援計画」の策定が義務付けられたのを機に，個々の生徒のニーズに応じた教育を行うため，中学校で生徒がどんな教育を受けてきたのかを把握することを目的に「出前教育相談」事業を立ち上げた。この活動を通して，中学校の先生と共に生徒の実態を話し合うだけではなく，本校の教育活動についても理解を深めてもらう努力をしている。こうしたことから，「中学校の先生をメンバーとしては」といった意見が出た。反論として，「特定の中学校関係者だけをメンバーにすることは好ましくない」といった意見も出た。背景には，本校が入試選考を行っており，毎年高い競争率になる状況がある。

(5) 学校関係者評価（外部評価）委員の構成

以上のような議論を経て，「地域の人材活用」という視点をもちつつ人選をした。結果は，以下のとおりである。

①　元特別支援学校長
　以前，本校での勤務経験もある方で，専門家として特別支援教育について熟知していらっしゃる。
②　教員経験のある事業主（兼　学校評議員）
　２年生で実施している職場体験実習を，毎年受け入れてくださっている。雇用関係もなく，学校の教育活動に対して理解も深い。この方については，本校生徒に対して，かつて「薬物乱用防止の講演をしていただいている。本校の生徒の実態について，十分理解されている。
③　現ＰＴＡ会長
④　自治区長（兼　学校評議員）
⑤　元ＰＴＡ会長（兼　学校評議員）

以上の５名に趣旨を説明した上で依頼し，快諾を得た。

(6) 学校関係者評価（外部評価）委員会の実際

本年度の重点目標は「個別の教育支援計画の充実と一人一人のよさや個性を引き出す教育の推進」である。前述の「出前教育相談」事業での中学校の教員・保護者に対するアンケート（資料３）は，自己評価の際の参考資料とするにとどめた。

第１回学校関係者評価（外部評価）委員会を10月４日に開催した。生徒の活動そのものに重点目標

を置いているからには，実際のありのままの姿を見ていただくのが一番である。授業の中でどのように教育支援計画が生かされているかを，授業参観の中で各委員の方に説明した。その後，本校教職員と意見交換を行った。自己評価書の中間評価（資料４）を基に会を進めた。以下の幾つかの課題が明らかとなった。

ア　個別懇談会への参加保護者の減少
イ　木材加工・金属加工等の機械類の老朽化への対応
ウ　改善策の具体性の欠如

昨年度までの，「全体的によくやっている」といった意見ではなく，具体的な指摘を受けた。さらに，中学校の教員・保護者へのアンケート結果で「十分成果を上げている」の評価を得ていた項目について，意外にも厳しい指摘があった。この結果に敏感に反応し，慢心を反省した職員が多くいた。

(7) 学校関係者評価（外部評価）書の書式について

検討中であり，試作（資料５）の段階である。自己評価と比較して，一目で見ることができるようにしたい。課題を明確にし，共通の意識をもつという点で，この書式が，評価者にも教職員にも有効であろうと考えている。

また，「Ａ～Ｄ」の評価は行わず，記述による質的評価のみにしたい。すべての御助言を，本校への厳しい評価と受け止めるという意図である。

５　成果と今後の課題

(1) 成果

学校関係者評価（外部評価）委員会を開催するまでに，かなりの困難はあった。ただし，それらを本校の教職員は有意義なものに変えた。様々な観点から多くの意見が出されたが，互いに受け止め合う中で，「評価」についての考え方が徐々に浸透してきた。「評価」が相手をけなすものではなく，前に進むためのヒントであるという共通理解ができたのが収穫である。

第１回学校関係者評価（外部評価）委員会を，中間評価を出した後に設定したことは，とても効果的であった。意識の変化した教職員は真摯に受け止め，年度末に向かって改善策の修正をし，後半の教育活動に生かしつつある。

(2) 課題

学校評議員と学校関係者評価（外部評価）委員のメンバーを同じにしなかった。その成果は大きかったが，兼任の方もいらっしゃるので，開催日・時間の調整が大変であった。兼務者の負担を第一に考え，時間をずらして二つの会議を実施した。時間にゆとりがなく，どちらの会議も時間が足りなかった。どのように時間を確保していくか，もう少し工夫が必要である。

今年度はメンバー選出が年度途中になったためやむを得ないが，次年度は，年度当初に第１回学校関係者評価（外部評価）委員会を開催し，重点目標等についての十分な説明及び資料の提供をしたい。そうすることで，第２回（10月）委員会を更に充実させることができる。

学校関係者評価（外部評価）書が教職員の行動を左右する。学校全体で検討を重ね，年度末反省と次年度改善に向けて，より使いやすいものにしていきたい。これも，常に改善すべき項目の一つである。

資料１

学 校 評 価 年 間 計 画

年	月	評　価　ス　ケ　ジ　ュ　ー　ル
18	3	ＰＬＡＮ 学校評価委員会 年度末評価を生かし19年度重点目標を決定 職員会議で重点目標について共通理解を深める
	4 5 6 7 8	ＤＯ　ＰＴＡ役員会・ＰＴＡ総会　※重点目標について説明 学校便り『向日葵』発行　※公表 ＰＴＡ会報『はなみずき』発行　※公表
	9	ＣＨＥＣＫ 学校評価委員会　中間（自己）評価
	10	ＰＴＡ役員会　※中間（自己）評価を説明 **第1回学校関係者評価（外部評価）委員会** ＤＯ　ＡＣＴＩＯＮ／ＰＬＡＮ　後半の教育活動の見直し
	11	
	12	ＰＴＡ役員会　※後半の方針と実施状況を説明 学校便り『向日葵』発行　※公表 ＰＴＡ会報『はなみずき』発行　※公表
19	1	ＣＨＥＣＫ 学校評価委員会　自己評価書の作成
	2 3	ＰＴＡ役員会　※年度末（自己）評価を説明 **第2回学校関係者評価（外部評価）委員** ＡＣＴＩＯＮ／ＰＬＡＮ 学校評価委員会　改善案の検討 学校関係者評価（外部評価）書を基に20年度重点目標を決定 職員会議で重点目標について共通理解を深める 学校便り『向日葵』発行　※公表 ＰＴＡ会報『はなみずき』発行　※公表

公表の方針

1　学校便り『向日葵』を生徒・保護者に配付する。加えて，自治区長を通して地域の皆様に回覧する。

2　ＰＴＡ会報『はなみずき』を生徒・保護者に配付する。加えて，ＰＴＡのＯＢ会役員にも配付する。

3　ホームページには掲載しない。本校生徒の家庭にパソコンが十分普及しているとは言い難い。また，使いこなせる者の数も限られている。

個 別 の 教 育 支 援 計 画

資料２

No. 1 *〔プロフィール〕*

愛知県立豊田高等養護学校

ふりがな	とよた　じろう	性別	生　年　月　日	ふりがな	とよた　たろう
氏　名	豊田　次郎	男	平成〇年〇月〇日	保護者氏名	豊田　太郎
住　所	〒 電話： FAX：				
家族構成	祖父，父，母，兄，本人，妹				
学校歴	○○市立○○小学校卒	特殊学級	○○市立○○中学校卒	特別支援学級	

生徒の様子			
主障害（病名）	知的障害		
療育／愛護手帳の有無	有り	A　B　(C)　／　1　2　3　4　(交付　H〇年〇月〇日)	無し
身体・視聴覚障害の有無	有り		(無し)

健　康　面

■ 健康上の留意点（アレルギー，服薬，発作等）

・てんかんがある。（毎日，朝夕服薬）
・難聴の疑い，花粉症，アレルギー性鼻炎，アトピー性皮膚炎。
・春の時期には鼻血が出やすい。

情　緒　面

・初めてのことに対しては自信がなく，取り組むまでに時間がかかる。
・大変きちょうめんで，何事もきちんとしないと気が済まないところがある。
・不安なことがあると，落ち着いて行動ができない。

社会性・意思の伝達（対人関係，興味関心 等）

・自分の意思や考えを言葉で伝えることが苦手。
・高校野球が大好きである。
・新しい環境や人に慣れるまでに時間がかかる。
・車のナンバー，電車の型式などに興味をもっている。

生　活　面

■ 日常生活上の留意点

・朝，一人で起きることが苦手である。
・トイレがちかい。
・整理整とんが苦手である。
・物の管理や整理の面が心配である。

※空白を埋めようとするのではなく，活用しながら適宜加筆するようにする。

学　習　面（国語，数学，作業 等）

・３けたの足し算はできるが，引き算は苦手である。
・時計を読むことが苦手である。
・小数，分数の基本的な計算ができる。
・話をすることは得意であるが，漢字を書くことは苦手である。

※進路の個人票とリンクさせる。

部活動	文化部

生育歴	■ 出生時のこと，検診，障害と診断された時期や特別な訓練を受けたなど(参考となることがら)

作成日	平成〇年〇月〇日	作成者（１年担任）	高養　三郎

※　作成日以降に必要なことがらを追記していく際には，記入年月と記入者名を記入する

No.2　〔支援の計画表〕　(愛知県立豊田高等養護学校)

願い・展望			年度	学年	担　任
	本　人	お金をためて，車を買いたい。	H○	1	
	保 護 者	就職をして，一人で生活していける力を身に付けてほしい。	H○	2	
			H○	3	
	希望進路	就職（製造業希望）			

教育的支援		課題及び支援の手だて	経過・成果等
	1年	一日の生活や活動に見通しがもてるようにするために，一日の時間割を写真で示す。 国語や数学を中心に読み書きや計算の力を高めるために，段階に応じた課題プリントを用意したり，コンピュータを利用したりする。	一日の予定が理解でき，見通しをもった生活ができた。 読み書きや計算の力については，継続した指導が必要である。
	2年	一年間の課題（目標）の設定と課題を解決（目標を達成）できるように，定期的に面接をする。	
	3年	**※この教育的支援を踏まえて，個別の指導計画では，達成できそうな短期目標を設定する。** **※個別の指導計画の目標にそのまま転記してはいけない。**	

関係機関等による支援		支援の内容	経過・成果等	関係機関・担当
	医療・保健	定期検診（年に一回），ウンセリング		豊田市こども発達センター 担当：○○医師
	福祉	療育手帳の取得申請		○○児童相談センター
	労働	就労に関する情報の提供		○○職業安定所
	地域社会	スイミングスクールとの連携，情報交換		○○スイミング

計画や支援の評価・課題	1　年		2　年		3　年	
	H○年○月○日	記入者:	H○年○月○日	記入者:	H○年○月○日	記入者:

資料３

「出前教育相談」事業におけるアンケート調査　様式及び結果

ねらい：自己評価をより客観的にするための指標とすること

対　象：教育相談の対象となった中学生の保護者（回答105人）／ 中学校教員（回答30人）

評価基準 ＼ 評価項目	A：十分成果を上げている B：おおむね成果を上げている C：努力を要する D：評価することができない（わからない） 上段：保護者　下段：教員　（%）			
① 学校の教育目標が具体的で分かりやすい。	A82.9	B14.3	C 1.0	D 1.9
	A83.3	B16.7	C 0.0	D 0.0
② どの生徒もあいさつがしっかりできる。	A63.8	B27.6	C 1.0	D 7.6
	A60.0	B20.0	C 0.0	D20.0
③ 生徒の服装が整っている。	A76.2	B19.0	C 0.0	D 4.8
	A76.7	B 3.3	C 0.0	D20.0
④ 生徒への指導方針が教職員間で理解されている。	A72.4	B22.9	C 1.0	D 3.8
	A80.0	B10.0	C 0.0	D10.0
⑤ 特色のある教育が展開されている。	A77.1	B20.0	C 1.0	D 1.9
	A83.3	B13.3	C 0.0	D 3.3
⑥ 生徒が意欲をもって学校生活を送っている。	A63.8	B30.5	C 0.0	D 5.7
	A60.0	B20.0	C 0.0	D20.0
⑦ 授業内容が分かりやすく，充実している。	A67.6	B24.8	C 0.0	D 7.6
	A63.3	B16.7	C 0.0	D20.0
⑧ 一人一人の生徒が生き生きと授業に取り組んでいる。	A56.2	B33.3	C 0.0	D10.5
	A50.0	B26.7	C 0.0	D23.3
⑨ 生徒の学習場所としてふさわしい環境の整備と維持に努めている。	A82.9	B15.2	C 1.0	D 1.0
	A96.7	B 3.3	C 0.0	D 0.0
⑩ 安全教育が徹底し，生徒は安全に留意し作業に取り組んでいる。	A81.0	B15.2	C 0.0	D 3.8
	A83.3	B 6.7	C 0.0	D10.0

該当する番号に〇印を付けてください。　※回答結果省略

⑪ 本校を希望した理由 1 教育方針が気に入ったから　2 就職率がよいから　3 大企業に就職できるから 4 中学校が勧めるから　5 知り合いのお子さんが通学しているから　6 なんとなく
⑫ 学校説明会・教育相談（夏休み実施）・体験入学の実施内容について 1 適切であった　2 適切ではなかった
⑬ 学校説明会の実施時期について 1 適切であった　2 もう少し早い時期がよい（　月頃）　3 もう少し遅い時期がよい（　月頃）
⑭ 体験入学の時期について 1 適切であった　2 もう少し早い時期がよい（　月頃）　3 もう少し遅い時期がよい（　月頃）

何かお気付きのことがあればお書きください。

- 学校の教育方針を聞いて，感動した。（保護者）
- いつも校内がきれいだ。（保護者）
- どの教室もよく整備されていた。（教員）
- 年間の行事（出前教育相談）予定をできる限り早く知らせてほしい。（教員）
- 先生方の心配りを生徒に十分伝えることを第一歩として，特色ある学校づくりを目指してほしい。（教員）

御協力ありがとうございました。学校の運営・改善等の参考とさせていただきます。

平成１９年度　自己評価書（中間評価）

資料４

本年度の重点目標	個別の教育支援計画の充実と，生徒一人一人のよさや個性を引き出す教育の推進				
担　当	重　点　目　標	具　体　的　方　策	評価	評　価　の　理　由	改　善　策
教　務	・教師と保護者による個別の教育支援計画の共有 ・各業務の連携・協力	・懇談時において個別の教育支援計画を保護者と共に作成し，事態の変化に合わせて改善を繰り返す。 ・諸表簿の提出や研修会への参加等，職員全体へ文書で促すなど積極的に働き掛け，職員全体の資質の向上に寄与する。	B C	・５月の個別の懇談において，本人及び保護者の願いを聞き，全校生徒における個別の教育支援計画を作成することができた。 ・週学習指導計画案，年間指導計画案，学級経営案等の提出期限があまり守られていない。現職研修の参加者が少ない。	・教育的支援の内容や関係機関等による支援の内容について，学期末の懇談会で保護者に確認する。 ・改めて何度も諸帳簿の提出を促すとともに、表簿の作成は教師としての義務であることを伝える。 ・魅力ある現職研修を企画する。
生徒指導	・生徒の問題行動等への適切な対応	・問題行動等に関する情報を速やかに集約し，職員が正確な情報を把握して適切な対応ができるよう連絡・調整を図る。	B	・関係職員には、問題行動等に関する記録を同じ書式で速やかに作成してもらった。 ・校内の対応チームを，問題の内容に応じてできる限り早い段階で組織した。	・対応チームのメンバーの役割分担を明確にし，メンバー個々の資質を生かした指導・支援ができるようにする。
教育工学	・コンピュータ学習の推進	・各教科，領域等におけるコンピュータ学習の実情を把握し，内容に重複や漏れがないように調整するとともに，活用についての啓発を図る。 ・パソコン室月間利用予定表を作成する。	B	・コンピュータ学習の実情はある程度把握できているが，活用についての啓発は図られていない。 ・パソコン室月間予定表の作成については，遅れることも時折あるが，作成し，活用されている。	・定期的に，各教科領域主任に実施予定を提出してもらう。
第１学年	・日常生活に必要な基礎的・基本的な力の育成	・生徒の観察，保護者との懇談，出身中学校との連携などを通して，生徒の持ち物管理の実態を明確に把握する。	B	・すべての生徒の出身中学校の教師と出前教育相談を行うことにより，個々の生徒のより具体的な実態が明確になり，日常生活の指導に反映することができた。 ・更衣室の使い方、清潔な身なり，忘れ物をしないなど，年度当初に比べるとずいぶん改善されてきたが，まだ十分とは言えない。	・具体的な更衣室の使い方を図で示す。 ・言葉掛けを多くして，個々の生徒の自覚を促していく。

第２学年	・就労に対する意識の向上 ・個に応じた具体的な進路選択への支援	・職場体験実習を通じ，実習先と懇談する中で，生徒の今後の課題を見付け、働く意欲や働くための力が身に付くように学校生活において支援する。	C	・職場体験実習に向けての意識付けがしっかりとできていなかったため，職場体験実習Ｉに向かう姿勢や態度が十分ではなかったので，実習中に問題行動が出たり，校内実習を完結できなかったりした。出てきた課題を本人に十分理解させての課題の克服には至らなかった。	・生徒の実態に即して事前事後学習を十分に行い，結果や実習先からの評価を個別の指導計画に盛り込んでいくことで日々の支援と直結していく。
		・生徒の思いや適性，保護者の願いを基に，生徒に合った職業が選択できるように示唆する。	C	・生徒の進路に関する思いや保護者の願いをじっくりと時間をかけて聞き出すことができなかったので，生徒にどのような職業が合っているかなどをきちんと把握することができなかった。	・本人，保護者はもとより兄弟や家族に対しても進路や卒業後の生活に対する理解が深まるように支援していく。
第３学年	・本人や保護者の願いを踏まえた進路指導や職場開拓	・職場体験実習や産業現場等における実習で明らかにされる課題や目標を生かした個別の教育支援計画を作成し，活用する。	C	・個別の教育支援計画の内容を学年で共通理解する時期が遅くなってしまった。	・教育支援計画の内容を学年で共通理解する。特に支援を要する生徒を再確認し，本人の課題を押さえた支援をする。
		・担任を中心に生徒の情報を発信し，担任，授業担当者，部活動担当者，家庭が支援の方針について共通理解する。	C	・情報を入手したことに対して，迅速な対応ができなかった。	・問題行動に対し，学年組織として支援の役割分担を明確に行う。
		・保護者に生徒の実態を多面的に理解していただくとともに，事業所が求める作業能力，コミュニケーション能力等を伝え，本人に合った進路選択ができるようにする。	D	・懇談会の出席率が約 40%だった。	・仕事の都合をつけるのが難しい保護者が多いので，日程に幅をもたせ，電話連絡で生徒の様子を伝える機会を設ける。

※評価基準

Ａ：計画どおりに進んでいる。
Ｂ：ほぼ計画どおりに進んでいる。
Ｃ：あまり計画どおりに進んでいない。
Ｄ：計画どおり進んでいない。

資料５

自己評価・学校関係評価（外部評価）書（案）

本年度の重点目標：個別の教育支援計画の充実と生徒一人一人のよさや個性を引き出す教育の推進

担当	重点目標	具体的方策	中間評価			年度末評価		
			自己評価	改善策	学校関係者評価	自己評価	改善策	学校関係者評価
教務部	・教師と保護者による個別の教育支援計画の共有	・懇談時において個別の教育支援計画を保護者と共に作成し，事態の変化に合わせて改善を繰り返す。	B	・教育的支援の内容や関係機関等による支援の内容について学期末懇談会で保護者に確認する。	・保護者会への出席が少ないことへの危機感が薄い。 ・今後40%から80%へと出席率を上げていくぐらいの意気込みで努力してほしい。			
生徒指導部								
来年度（後期）に向けた課題・改善点等								